

AIDSネットワーク横浜 ニュースレター

発行：特定非営利活動法人 AIDSネットワーク横浜

〒231-0015 横浜市中区尾上町 3-39 尾上町ビル 9 F

Tel：045-201-8808 fax：045-201-8809

ホームページ <http://www.netpro.ne.jp/any/>

e-mail：any@netpro.ne.jp



第28回AIDS文化フォーラム報告 HIVと妊産婦への切れ目のない支援 水主川 純さん（東京女子医科大学）

第28回AIDS文化フォーラムは、8月6日（金）～8日（日）の3日間、「ともに生きる～つながりの参加者になる」をテーマに開催されました。

今年は開催直前まであーすぷらざ&オンラインとの両方を準備されてきましたが、残念ながら新型コロナウイルス感染症によりすべてオンライン開催になりました。

AIDSネットワーク横浜は、水主川純先生（東京女子医科大学）による「HIVと妊産婦への切れ目のない支援」をテーマに8月7日（土）16：15～17：00に開催しました。

〈おもなお話〉

妊婦が妊娠初期に行うHIV感染のスクリーニング検査では、0.1～0.3%程度の擬陽性が発生するので、スクリーニング検査陽性になった妊婦に確認検査を行う前に十分な説明を行っておくことが必要である。

確認検査を受ける前に、

- ① 確認検査の結果を確認するまではHIV感染の有無は明らかではないこと。
- ② 確認検査を受けたほとんどの妊婦はHIV感染ではないことが確認されていることを伝えておくことが大切。

HIVの母子感染は、

- ① 経胎盤感染（母体血中のHIVが胎盤に侵入し、臍帯を経ることによる）
- ② 経産道感染（分娩時、児が母体の産道を通過する際に母体血液や体液に暴露されることによる）
- ③ 経母乳感染（HIV感染母体の母乳を摂取することによる）の3つの経路がある。



妊婦健康診査を未受診の妊婦の問題は多くの課題がある。

妊婦健康診査を受診することなく陣痛が起きてから医療機関を受診すると、救急医療体制への影響や分娩予定日が不明なこと、妊娠高血圧症や胎児発育不全などの周産期合併症が不明であること、母子感染や医療従事者への感染リスク、新生児集中治療室への影響、医療費支払いや養育に関する問題など様々な課題がある。

妊娠から分娩、育児へと続く経過の中では、妊娠の届け出、母子健康手帳の交付、妊婦健康診査があり、分娩に至る。生まれてからは、乳幼児健診、乳幼児家庭全戸訪問事業などを通じて、妊産婦への切れ目のない支援を行っている。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響は妊産婦にも及んでいる。妊娠中の集団保健指導の中止、立ち合い分娩の中止、入院中の面会禁止、COVID-19のスクリーニング検査などにより社会的・身体的・心理的ストレスが妊婦自身にもかかっていると話された。

COVID-19を含めて産婦人科の医療現場でのお話をお聞きすることができた。

私は話を聞きながら、このような国の体制を受けることができない若年女性の存在があり、時に不幸な事件として報道されることを思い出していた。そして、性交の結果、妊娠したら生理（月経）が止まるということを知らない子どもたちもいることを知っている。

未受診妊婦の背景には、妊娠・避妊・中絶・対等な関係などを学ぶ包括的性教育が日本の子どもたちに届いていない現状を反映していると感じていた。

〈視聴者のアンケートより〉

視聴者：約90名

その内アンケート回答47名

多いに（理解できた）との回答が44名で好評だった。

〈感想〉

○ 今回の講座を通して、HIV感染が妊産婦に与える影響の大きさや、人とのつながりが減っている中で妊産婦は不安やストレスを強く感じていることを学びました。妊産婦が安心して出産を迎えるためには相談などを通して様々な不安を軽減する必要があり、そのためには医療従事者との信頼関係が築かれなければならないと知り、その人の立場になって考え支えていかなければならないと思いました。本日はありがとうございました。

○ 支えてくれる人がいるという感覚をもってもらうことが大切だと思った。

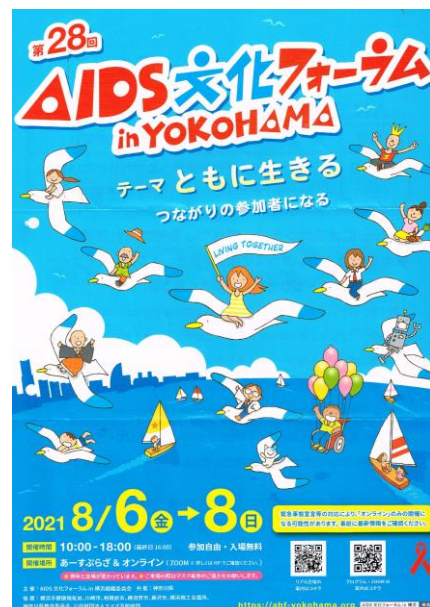
○ 妊産婦の支援について勉強になりました。ありがとうございました。

○ 産前産後ケア事業に従事しており講義の内容をリアルに感じている毎日です。ありがとうございました。

○ HIV感染や妊産婦への支援について学ぶことができました。多くの社会的問題があることを知り、身近な支援としてできる事はないのか、考えるきっかけとなりました。

○ HIV検査で陽性の妊婦が、確認検査の重要性と、十分な説明をする事により、妊婦さんの不安を最小限にする事が、相談された場合に、大切だと思いました。

（報告 中野久恵）



第28期AIDSボランティア学校開催 会員のスキルアップ研修と位置付けて全8講座を開催

昨年度は、新型コロナウイルス感染症により中止せざるを得なかったAIDSボランティア学校です。今年度は、一般公募を行わず、会員のスキルアップのための研修と位置付けて開催することになりました。9月4日（土）に、かながわ労働プラザで感染予防対策を講じての開催でした。

第1講座、第2講座を開催しましたので、概要をお伝えします。

第1講座 STIと免疫

UPDATE AIDSの基礎知識

認定NPO法人AIDSネットワーク横浜 事務局長 堀尾吉晴さん

堀尾事務局長は、豊富なスライドを使っての講義でした。HIV・AIDSの歴史、治療薬の開発により変わってきた医療の状況、日本や世界の感染者数などを前半に。後半は、免疫の仕組み、HIV感染、感染後の経過、検査を受ける時期、HIVの感染源と感染経路、感染から発症まで、性感染症とHIV・AIDSの内容でした。

1981年、アメリカで新病患者の報告、その後西欧・中南米でも報告が続いた。後に新病の原因であるウイルスが発見されHIVと名付けられる。今年で、HIV/AIDSは40年の歴史を迎える。未だ、HIVのワクチン開発はされていない。ワクチンについては、新型コロナウイルス感染症と大きく違うところだ。

スライドで興味深かったのは、先進国のAIDS患者報告数。他国はピーク時から曲線

が下降し続けているのに対して、日本は緩やかに上昇していること。日本の新規HIV感染者、患者のグラフでは、ここ数年減少傾向にあること。減少傾向の原因は、何なのか。分析結果を待ちたい。

〈受講者の感想〉

○STIと免疫、検査の現状を詳しく知ることによって、相談者の不安の解消につながると感じました。図解を取り入れた講義でわかりやすかったです。

○からだの不思議を思わせる勉強でいつも感心します。

○検査の時期を再確認してよかったです。

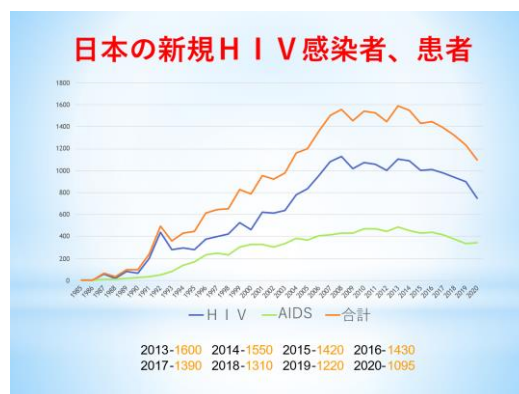
○素晴らしかった。COVID-19の話もしてほしかった。

○HIV感染機序についてゆっくり話してほしい（理解悪いので・・・）。

【日本の新規HIV感染者、患者】

最近の4～5年は減少傾向を示している。

年度	新規感染者数（人）
2017年	1390
2018年	1310
2019年	1220
2020年	1095



第2講座 いろいろな性

“人間と性”教育研究協議会 安達倭雅子さん

安達さんのお話は、45年電話相談員をやってきたというお話から始まった。「電話相談を受ける」とはどういうことか、そのために必要なことは何か。電話の受け手（電話相談員）にとって、「言葉を持って発信できる、言語化できる」かどうかが大切であると強調された。

電話相談には、子どもたちから様々な質問が入る。日本で1970年代に家庭内にビデオが入り、小5の子どもからアダルトビデオを見たという相談が入ってきたことがある。ある時は、「なぜ、ぼっ起するのか？」という質問に答えると子どもは、「なぜ知っているんだ、つまらない」と言ったりする。私には子どもが二人いると話すと、「2回、セックスをしたのか！」という。いやいや2回どころではない、もっとたくさんしたと言うと、聞いてほしい本音を話し出す。

電話では無知な子どもたちの質問が届く。性器の名前や包茎についての男の子からの質問。女の子は、性について無知なのが育ちの良さと勘違いしている子もいる。そうではない、性やからだの知識を得ることは、知は力なりである。電話の向こうの男の子は、「おまんこが・・・」と言ってくる。その言葉を受けて相談員は、「女性性器が・・・」と言い換える、単語をリピートできる力量を持つこと。言葉を持つには、科学としてからだを学びトレーニングすること。

スウェーデンに視察に行った時、中1の授業でズボン登校日があり、男女ともに内診台に上がる授業があった。男子も内診台に上がるという体験が将来、女性が体験する妊娠・

出産などへの疑似体験となり、ともに性やからだについて学ぶという教育があった。

1990年代、日本では血友病による感染は「良いエイズ」、性行為による感染は「悪いエイズ」という、「良いエイズ」「悪いエイズ」という2つの考えによりHIV感染者への差別が強化される社会情勢があった。薬害による感染者の川田龍平氏は、経路による違いはないというメッセージを発信していた。

私たちの社会では、人間の性別は、男と女に分けられ、その男と女がカップルになることが当然のように語られてきた。しかし、そうではない。人間の性は多様なのである。性自認がからだの性と一致し、好きになる対象が異性であるという多数の人々も多様な性を形作る一人である。外性器、性自認、文化としての服装（表現の性）、性対象の項目ごとに性のありようの説明があった。

〈受講者の感想〉

○いつも世相に合わせた楽しいお話をありがとうございます。電話相談を続けていかれる力をもらった気がします。

○アドリブのようにさりげなく、奥深い話にいつもワクワクしながら聞いています。

○性についての用語がたくさん使われた講義でした。無知な自分に気づかされ、知識を高めなければならないと感じました。言葉は武器ですとおっしゃった言葉が印象的でした。

多様性について、肌の色のお話で自身の肌色を基準に考えていた自分が恥ずかしくなりました。

